

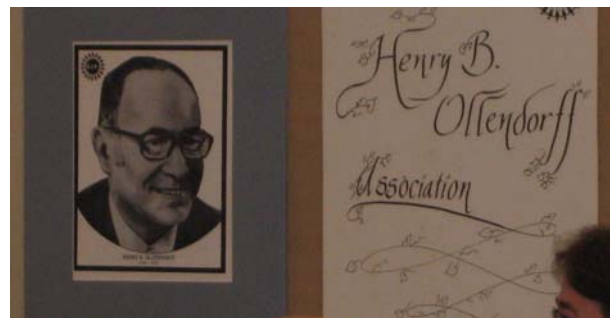
## CIF インターナショナル創立 50 周年記念シンポジウム報告

梶村 慎吾

2010年8月27日から29日までCIF インターナショナルの創立50周年記念シンポジウムが「異文化間のソーシャルワーク50年」というテーマでドイツのハンブルグで開かれた。ハンブルグは、1960年にCIFが創設された場所であり、50周年をくぎりとしてその歴史を振り返ってその使命を確認し、今後の展望と発展に繋げていく目的で開かれたものである。参加者は名簿によると23か国からの139名であった。日本からはCIF ジャパンの竹内会長と梶村が参加した。シンポジウムはハンブルグ市内のホテルアルコテルで開かれた。

第1日目には、CIFドイツのイルゼ・ホフマン会長、CIFインターナショナル会長ドメニコ・アントニオ・メローラ博士(写真右上座)、在ハンブルグアメリカ領事カレン・ベル氏の挨拶があった。その後講演としてベアーテ・アールト博士の「CIFの簡潔な歴史的背景と創設者ヘンリー・B・オレンドルフ(写真右中)」、エルケ・クルゼ教授の「CIFとCIPの例に見るソーシャルワーク分野の国際交換プログラムの条件・利用・インパクト—調査プロジェクトの結果報告」(本紙6ページ)、ワルター・スペヒト教授の「かえりみられない青少年への路上における青少年活動—路上における非行予防活動についての文化によるアプローチの違いを前提としたつながり」があった。

2日目は、Patriotische Gesellschaft(愛国協会)でレセプションがあり、ハンブルグ市の社会問題担当議員ディートリッヒ・ヴェルズィヒ氏による挨拶とCIF創設・創設にかかわったメンバーに対する賛辞があった後に、CIFインターナショナルにより何名かのCIF功労者が表彰された(写真右下)。そのうちの一人アニタ・ゲルデスさんはCIFがどのような願いにより生まれたかについて、ヨーロッパ各国からのCIP参加者による研究会が出発点となり、CIPプログラムがどのような効果・結果をもたらしているかを知りたいというアメリカでCIPを支えた人々や組織の希望等を背景としてCIFが創設



されたいきさつを話された。また、ロリー・ベイリー・ニルソンさんは1958年にハンブルグで行われた最初のCIF(の前身)プログラムに参加

した思い出を話された。アメリカから参加してそこで出会ったスウェーデン人と結ばれて以来スウェーデンで暮らしている人である。

その後バスでC I F創設決定時の会議場であったスティントファングという名のユースホテルや、オレンドルフ博士の住居のあった場所等を回った。夜は商工会議所でのディナー。

3日目は、午前中ハンブルグ港を巡航する船上でシンポジウムの総括が行われた後、さよならパーティーとなった。

C I Fのこれまでの働きの意義の総括、今後へ繋げる展望、メンバー間のフレンドシップを確認できた3日間のシンポジウムであった。その後、自由参加で3日間のベルリンへのバスツアーがあった。

C I Fドイツからはご家族を含め63名の参加があった。この50周年記念シンポジウムを充実

した会とするために、ハンブルグ市の協力を得てイルゼ・ホフマン会長を先頭にC I Fドイツのメンバーの皆様が払われたご努力に感謝したい。

(1996年刈ブランド、東京都在住)

追記： 梶村がC I P体験にまつわる日英対訳本「人生を豊かに生きるために必要なものは何か—理想の高齢者施設を求めて—」を出版し、C I Fインターナショナル会長にお送りしたところ、シンポジウムへの参加を勧められたので、女房とともに参加した。シンポジウム参加者に拙著を寄贈させていただいた。参加者の多くから有難うと言われ、サインを頼まれた。また自著を下さった方も何名かあった。本はハンブルグ市にも届けられたと聞いた。C I F会員や市民の方々への情報開示の役割を少しでも果たせたなら幸いである。(梶村記)

## REPORT OF MEETING IN HAMBURG 2

### CIF インターナショナル創立 50 周年記念シンポジウム講演

#### Dr. Elke Kruse による CIP/CIF 研修参加者に関する調査結果報告

## 「ソーシャルワークの国際交流」から

竹内 和利

フィンランドでの国際大会（2009年）において、過去50年に及ぶCIP/CIF研修プログラム参加者を対象にアンケート調査協力の要請があり、わたしも帰国後、メールで会員の皆様に回答ご協力をお願いを致しました。ご記憶の方も多いことと思います。CIF創立50周年記念シンポジウムの折に、その結果の一部が公表され、また124頁の報告書も配布（販売）されました。簡単ながらそれについてご報告させていただきます。

調査を実施されたまだ若いDr. Elke Kruseさんは在ベルリンAlice Salomon大学の女性研究員ですが、自らスロベニアでのCIF研修プログラムに参加され、CIFドイツの会員に知己も多いことから、CIFを内と外の両面から把握できる立場におられます。今回の報告文書には、上に述べたアンケート調査の第1段階の結果公表にとどまらず、50年の経過を遂げたCIF組織の活動経験と歴史を素材に、(ソーシャルワークの)国際交流

によるインパクトとその重要性を探るというテーマで、CIFに関する文書・文献精査、例えば故オレンドルフ氏に関する伝記、各国支部が実施してきた研修カリキュラム、国際研修の方法に関する小論などをも研究の視野において収録、掲載されています。

そのうちの一部として扱われた交流研修参加者対象のアンケート調査の結果はわずか24頁に過ぎませんでした。回収されたアンケートは全部

で 138 件、国別では欧州 116 件のうち、ドイツ 58、フランス 9、オーストリア 8 (以下略) など、アジアは 13 件の内、日本 4、イスラエル 3、ロシア 2 [以下略] でした。研修参加年代別では 1970 年代 20.29%、2000 年代 19.57%と続き、年代毎に 5~10%の差が見られます。研修参加への動機については、「自分の視野の拡張」(98%)、「異なった社会体制の理解」(91%)、「異国の文化を知る」(89%)、「外国の人々とのコンタクト」(87%)、「受入れ国での専門能力のある人との交流」(84%)、「専門領域に関する異なった考え方の出会い」(84%) (以下 18 項目) とあります。

次に参加した研修について、設問「交換研修のなかで重要な要素をひとつだけ挙げてください」に対して、その回答は①「ホースト・ファミリーと暮らすこと」(92%) が最も多く、②「多国文化グループでの体験」(89%) ③「オリエンテーション」(89%) ④「研修先への配置」(81%) ⑤「評価」(74%) が挙げられています。

研修の結果は①当初の期待が充足されたか、或いは②期待以上であったか、反対に③期待はずれであったか、という設問で、このうち①、②に寄せられた回答項目は次のとおり。

「交換研修は自分の視野を広げた」(91%)、「外

国の文化を知ることが出来た」(88%)、「外国の人との関係樹立」(87%)、「異なった社会体制を理解した」(83%)、「外国のソーシャルワークの水準を知り、自国のそれとの比較ができた」(81%)、以下 19 項目あり。

ちなみに 138 人の回答者に「将来できれば再度、研修に参加するつもりはありますか？」との設問に、77.5% (107 人) は Yes と回答、19.6% (27 人) は No と答え、年齢による都合を示唆する人が何人かあった、と記されています。

調査報告は、研修の成果について、それが仕事に及んだ事柄、或いは個人に及んだ事柄についても数量的に項目を挙げて報告されており、傍ら回答票に示された個々人のステートメントも多数列挙されています。詳細にわたる報告を紙面の都合で残念ながら省略させていただきます。

今回の報告は第 1 回目として、こんごさらに分析を進められるようですが、CIF は 50 年の歴史を重ねつつ、尚現在進行中の事業であり、また 21 世紀を迎えて新しい方途を模索している段階でもあります。その折に Dr. Kruse の様な立場で組織活動の調査が為されることは貴重であり、今後の詳細な調査、報告を期待したいと思います。

## REPORT OF MEETING IN HAMBURG 3

# CIF 各国代表者会議出席報告 (2010 年)

## Report on CIF International BD Meeting

竹内 和利

開催場所：Kulturladen St.Georg, Alexanderstrasse 16,  
20099 Hamburg, Germany

開催期間：2010 年 8 月 25 日~27 日

参 会 者：CIF 国際 EC 役員、18 ヶ国代表+CIPUSA  
代表 (現在 3 2 加盟国+CIPUSA)

委 任 状：CIF ニュージーランド、CIF オーストラリア、  
キルギス共和国

議事内容：【正式議事録は追って CIF 事務局長より送られてくるので、以下主要点のみ記す】



文中略記：EC(Executive Committee)執行委員会  
BD(Board of Directors)各国代表者、  
NB (National Branch)各国支部、  
EP (Exchange Program)交流研修プログラム  
CP (Contact Person)支部未設置国の連絡係

1. Mimmo 会長による開会の辞と各国代表への  
歓迎の辞。その際、最近の物故者 2 名への想  
い出が述べられ、参会者はしばし黙祷した。  
その後、参会者全員自己紹介。

2. 前回のフィンランドでの BD 会議の議事録に  
ついての承認、各国代表代理者の承認、今回  
の議題の承認が行われた後、会長が各国の活  
動についてパワーポイントを用いて詳細に  
報告を行った。(AAR「会長による年次活動  
報告」はご希望の方にメールで送付します)

3. EC の各委員からの報告。事務局長、財務委  
員、広報委員(欠席のため送付文書の代読)、  
EP 担当委員、CP 担当委員からそれぞれ報  
告が行われた。

1) 財務担当委員の報告では 08 年 (4,166  
ユーロ) に比べ 2009 年度 (7,237 ユーロ)  
は会費の収入増、国際大会でのマーケット収  
益 (2,892 ユーロ) 等から、年度末の残高  
(16,724 ユーロ) が前年度の 2 倍を超え、手  
持ちの資産が 37,237 ユーロに達した旨の報  
告がなされた。

2) EP 担当委員の話の中では、これまでの  
研修参加者 2020 名の名簿がデータとして保  
管されており、これを各国別に管理すべきか、  
一括管理でよいか、提議されたが結論は出な  
かった。担当者からは依頼があり次第、個々  
に公表するとの意向が示された。

3) CP 担当者は CIF 米国の代表が学会で香  
港を訪問した際に、当地の C I P 参加者に会  
う機会があり、当地での CIF 支部設立につ  
いて打診した旨報告があったが、その後の進展  
については触れられていない。

4) ウェブサイトと E-Forum について  
Hekkila 委員から報告があり、特に後者につ

いて、すでに設定されているが、活用が進ん  
でいないとの現状報告があった。

5) CIPUSA からは CORE Program、即ち  
従来からの C I P プログラムへの参加者が  
少なく、その理由として世界的な経済不況を  
挙げていた。CIPUSA から配布された資料に  
は昨年度のハイライトとして、ロシアはじめ  
ユーラシアの将来のリーダーに米国の民主  
主義を体験して貰うプログラムの第 2 回目  
を実施したという記事が盛られていたのが  
印象的である。

4. ワーキンググループの報告に移り、冒頭  
Mimmo 会長から組織の PR、マーケティング  
に関して在米イタリア人コンサルタント  
による CIF 組織に対する評価結果が紹介  
され、併せて CIF 組織のあり方に関する提言  
も紹介された。そのうち CIF のロゴマークが、  
ロータリークラブの古めかしいマークに似  
ていることや、"Council" という単語につ  
いても一般人に馴染みが得られ難いことなど、5  
0 周年を迎えるのを境に、外向きに考え直  
してみてもどうか、という提言であった。参  
会者からも共鳴する発言があり、Presence(5  
0 年の歴史を経た組織の存在)と Change(時  
代の変化に対応すること)のバランスを唱  
える人もいた。この結果こんごの対応につ  
いて話が及び、ここは若い世代の意見を聴  
こうということから、将来の組織のあり方  
を含め、組織の名称、ロゴマークに到るま  
で、CIF 米国、オーストリア他、数名の若  
手の代表者が "Public Relations Working  
Group" のメンバーに指名された。

5. かねてより CIF の運営面でパート専  
従職員による助力を仰ぐ計画であったが、  
今回さらに話を煮詰めて、募金担当補佐  
(Fundraising Assistance) という肩書き  
のスタッフについて、CIF ドイツの代表  
から提案があり、職務内容、必要な資  
格・能力について討議された。さらに資  
金集めの目的、方法についても意見が交  
わされた。

6. CIF 定款第 9 条にもられた、BD 会  
議での

Proxy Voter (代理投票者) について。90年代の終わり頃まで、現在より少ない加盟国数であったので、BD会議にはより多い直接参加が各国支部に望まれ、定款にも全体の3分の2以上の出席がBD会議成立の条件とされてきた。

10年後の現在、支部の数も増えたので、その点を見直し、「BD会議は全加盟支部の50%+1人の出席を得られる条件で、毎年1度は開催するものとし、代理投票は各支部1名に限る」ということが、定款改正に関するワーキンググループから提案された。(このことに関して、代理投票はBD会議に出席する他国の支部の代表に委任できるものと見なしていたが、欠席者が意見をBD会議に送付して出席者に代理発表を委任することは出来ても、代理投票までは委任できないことを確認した。会長或いは議長に委任することもできない。) この提案は評決の結果、全会一致で承認された。

7. Ethical Issues (倫理問題) として、CIF 国際への会費未納支部の問題、アフリカの某支部では一部役員によって会費が横領されたと疑われている。また Silent Branch (活動していない支部、というより音信が途絶えている支部) について定款の上でどのように取り扱うか、加盟については規定があるが、除名はどのような条件で可能か等、あらたにワーキンググループが編成された。

8. CIF Archives (CIF の記録、公文書) の収集について。事務局長ロリー・ニルソン女史は、CIF 関係の歴史的な記録文書が世界中に散逸しているので、各支部の会員に呼びかけ、保持している人には提出に協力して欲しいと呼びかけた。会長からも情報提供でも有り難いと発言があった。

9. 合衆国、欧州諸国、世界各国間での若者・学生による交流研修プログラムについて。

かねてより CIF 米国 (CIPUSA とは別組織) が音頭をとって自主的に実施してきた。例示されたのが、米国の大学生10名程と教員が

東欧の大学を訪問し、生活や作業を共にするという内容で、施設訪問や文化交流も行われ、4単位が学生に与えられるとのこと。学生の負担は2200米ドル。反対に東欧の大学生と教員が、訪問した米国の大学を訪れ、同様のプログラムで過ごすという内容である。これは各支部に協力、参加を求めるためではなく、活動の一環として紹介されたものと受け止めた。

10. EP (交流研修) のワーキンググループから各支部への要望事項:

- 1) 各支部のプログラムはそれぞれのホームページに英文で掲示する。
- 2) 研修参加志望者との面接は必ず英語でおこなうこと。
- 3) 研修参加者が参加をキャンセルした場合、参加費の払い戻しについては検討を要する。
- 4) EP参加の申込みは1人につき年度内1支部宛とする。複数の志望を認めない。

11. 第29回国際大会 (2011年、於キプロス) の開催について

2011年9月26~10月1日、キプロスの首都ニコシア(SEMELI Hotel) で開催される予定。一時期7月開催が検討されたが結局9月開催となった。テーマは”The Global Societies of Inclusion or Exclusion?” 大会内容では、恒例のマーケットでは外部の人々も購買者として受け入れるとのこと。

参加費: ~2011年1月31日までの申込みの場合 Euro420 (参加費+宿泊費+食費込み)  
~2011年4月30日 Euro460 (同上)  
~2011年7月31日 Euro500 (同上)

シングル・個室 Euro50 追加

大会終了後のツアー予定:

- ・キプロス島内ツアー 2コース
- ・イスラエル 1コース
- ・ギリシャ 1コース

国際大会の直前に開かれるEC及びBD会議の予定は次のとおり:

EC会議 9月22,23日

BD会議：9月24,25日

場所は Semeli Hotel

- 12 CIF 部内 Committee への参加呼びかけ  
事務局長より、CIF に会費を納入している支部からの、9つの委員会への参加の呼びかけがあり、次回BD会議までにいずれかの委員会への参加を表明して欲しいとのこと。又2011年3月末まで委員会についての提案、意見を受け付ける。
- 13 次期 EC 役員について  
次回の国際大会を期に役員改選が行われる

が、現会長、現事務局長は8年に及ぶ任期を果たし、今期を以て退任することとなり、新任者が求められる。選挙委員会がいずれ公示を行うが、現在のECメンバーの内、4名が再任可能である。各支部で働ける人を求めて欲しいと要望があった。

BD会議終了に当たり、Mimmo 会長が3日間にわたる審議に対して参会者に礼を述べ、キプロスでの再会の希望を述べて閉会した。

(1994年イデ・イナポリス、京都府在住)

## 第29回 CIF 国際大会（キプロス）のご案内

会期と会場がつぎのように変更になります。

会期： 2011年9月26日（月）～10月1日（土）  
会場： 首都ニコシア市 セメレ・ホテル（Semeli Hotel, Nicosia, Cyprus）  
テーマ： 「グローバル社会—包摂か、排除か」

“GLOBAL SOCIETIES OF INCLUSION OR EXCLUSION?”

プログラム： 全体会議、分科会、講演、ワークショップ、施設見学など

参加費： 1月31日まで 420ユーロ（参加費、宿泊費、食費込み）  
4月30日まで 460ユーロ（参加費、宿泊費、食費込み）  
7月31日まで 500ユーロ（参加費、宿泊費、食費込み）  
シングル・個室希望の場合 追加50ユーロ

大会後のツアー： キプロス島内ツアー、イスラエル・ツアー、ギリシャ・ツアーがあります。  
詳しくは、World News Winter 2010 または<http://www.cifinternational.com>をご覧ください。

## World News Winter 2010 が発行されました

CIF インターナショナル創立 50 周年記念シンポジウム報告、2011 年キプロスで開催予定の第 29 回 CIF 国際大会案内のほか、CIF ジャパンから、奥野英子さんと小池嘉夫さんが登場しておられます。  
<http://www.cifinternational.com/news> でもご覧になれます。

## メールアドレスを変更された方は

お手数ですがcifjapan08@gmail.comまでお知らせください。

## 2010 年度会費未納の方はお振込み願います

郵便振込 00270-4-54121 CIF ジャパン

または 三井住友銀行八王子支店(普)7815136 CIF ジャパン出納責任者梶村慎吾（年会費3000円）

### 本紙(ニューズレター No.25)目次

2011 年を迎えて	p. 1
発展の年への抱負	2
国際研修プログラム参加者決定	4
CIF インターナショナル創立 50 周年 シンポジウム報告	5
同 シンポジウム講演報告	6
CIF 各国代表者会議出席報告	7
[添付] World News Winter 2010 (2010 年度会費納入者のみ)	